

丹

後の織物が一堂に会する第73回丹後織物求評会が、丹織物工業組合特設会場において10月18・19日の2日間にわたり開催され、最高賞にあたる経済産業大臣賞を白井織物株式会社（下山田）が受賞しました。

求評会では、組合員機業25業者から出品された168作品を「表地部門」「裏地部門」「小物部門」「先染部門」「テキスタイル部門」の5部門に分け、来場者による投票によって11点の入賞作品を決定。経済産業大臣賞を獲得した白井織物（白井）の生地は「十二越強撚烏帽子×絞り練り」。ポリエステルちり



経済産業大臣賞を受賞した生地を広げる白井さん

めんを精錬前の生機（きばた）の状態、大きさの違うビー玉を使って縛り精錬することで強制的に凹凸を表現したもの。「量産すると難しいが、丹後ちりめん技術の可能性を示す作品に仕上がった」と生地を制作した白井勇人（ゆうひと）さん。今後は「洋服や着物だけでなく、丹後ちりめん技術を生かしながらインテリアにも挑戦していきたい」と抱負を話してくれました。

《与謝野町内の受賞者》

- ▼中小企業庁長官賞
絢和（幾地）
「ユニバースグロウ」
- ▼京都織物卸商業組合理事長賞
株式会社ワタマサ（岩屋）
「帯揚 銀通し 半菊」
- ▼日本絹人織織物工業組合連合会理事長賞
株式会社ワタマサ（岩屋）
「御召 シクラメン」
- ▼日本絹人織織物工業会会長賞
前満織物（岩滝）
「縫取り 乱菊」
- ▼【特別賞】伊達男・きもの賞
株式会社ワタマサ（岩屋）
「御召 正六角」

第73回丹後織物求評会 経済産業大臣賞（白井織物株式会社）

ジャパン・テキスタイル・コンテスト2022 グランプリ（川端デニム製作所）

次

代のファッション産業を担う人材の発掘と育成をテーマに「ジャパン・テキスタイル・コンテスト2022」が、10月12・13日の2日間にわたり愛知県一宮市で開催され、川端デニム製作所（岩屋）の「Japanese exotic denim」がグランプリを受賞しました。

応募総数129点（一般の部）の中からグランプリに選出された川端デニム製作所の生地は「手織りが継承されている丹後産地の特長を生かした裂き織りの素材。裏面を表にして提案があったことで、より一層表面感の魅力が際立ったと思います。そのアイデアの判断に感性の鋭さを感じました」と審査員から評価されました。

手仕事を後世に

代表の川端晃（かわたあきら）さんは和歌山県出身の34歳。服飾系の学校を卒業後、就職をきっかけに与謝野町に移住し、織物関係の会社に勤め「布を作る現場と人の手仕事」に魅力を感じ、自身で布を作りたいと思



手織りを操る川端さん

い7月に独立。デニムに着目した理由を「手仕事を後世に伝え残していく手段として、誰もが知っていて世界中で作られられている、かつ日本が誇るテキスタイルの一つであるデニムを選択した」と川端さん。手織りは機械とは違い、糸使いや力加減によって風合いや表情が変化することが魅力だと言い、自身の作品を「一点ものの布」と表現します。今後は「生地の展開だけでなく、小物などの完成品を作りたい」と話してくれました。



手織りのデニムジャケット

